

美術作品を救おう 美術館に活力を！

全国美術館会議は取り組みます、これからも。

<http://www.zenbi.jp/>



石巻文化センターのレスキュー活動

陸前高田市立博物館のレスキュー活動

東日本大震災は、被災地のみならず社会全体に深い爪痕を残し、福島県の原子力発電所の事故も、いまもなお多くの人々の生活に影響を落としています。

被災地では、美術館・博物館の所蔵品を含め、数多くの文化財が被害を受けました。全国360館あまりの国公立美術館・博物館が加盟する全国美術館会議は、文化庁の呼びかけによる「文化財レスキュー事業」に参加し、全国から多数の加盟館職員が被災地を訪れ、作品・資料の救出と修復に当たっています。

また、全国美術館会議は、加盟館を通じて広く全国の方々に東日本大震災の救援や支援を呼びかけてきました。募金やご寄付、400人の作家の方々から提供いただいた作品によるチャリティ・オークションの収益など、これまでに寄せられた義捐金は1億円以上にのぼります。

全国美術館会議は、皆様から託された義捐金を適正に活用して、被災文化財の保存・修復と、被災地の美術館・博物館の復興支援に、これからも長期にわたり取り組んでまいります。

ここに、震災発生から現在までの全国美術館会議の活動をご報告するとともに、今後とも募金をはじめ皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●文化財レスキュー事業

1. 石巻文化センター(宮城県)

宮城県美術館はじめ会員館19館・約40名が参加。4月27日～29日、宮城県・仙台市・石巻市教委、文化庁、国立文化財機構との連携により、被災美術作品・資料212件を搬出。4月30日～5月28日、宮城県美術館にて応急処置(東北芸術工科大学、外部修復家、東北大学ボランティアの協力による)。6月、処置後の作品・資料を再移送。宮城県美術館、東北芸術工科大学、国立西洋美術館、東京藝術大学にて分割保管。11月中旬、2階展示室の彫刻16点を東北芸術工科大学へ移送。12月1日、1階の被災ブロンズ彫刻を搬出、県外鑄造所にて修復予定。

2. 陸前高田市立博物館(岩手県)

岩手県立美術館はじめ会員館33館・約70名が参加。6月13日～7月10日、現地調査、盛岡市内の作業所設営。7月12日～14日、岩手県・陸前高田市教委、救援委員会事務局(東京文化財研究所)との連携により、絵画・書作品約120点を作業所へ移送。8月中旬、作業所にて作品を燻蒸。8月21日～9月25日、作業所にて応急処置。外部修復家の協力による。9月末、処置後の作品を岩手県立美術館に移動、作業所を撤収。

3. 宮古市民文化会館、宮古市役所(岩手県)

岩手県・宮古市教委、救援委員会事務局、全美会員館4館・4名により実施。8月31日、市民文化会館および市役所の作品2点を岩手県立博物館へ移送。同館で燻蒸、盛岡市内の作業所にて応急処置後、岩手県立美術館に移動。

4. 宮古市個人宅(岩手県)

岩手県・宮古市教委、救援委員会事務局、岩手県博、全美会員館4館・4名により実施。9月28日、宮古市個人宅の作品10件を岩手県立博物館へ移送。

5. 陸前高田市立広田中学校(岩手県)

岩手県・陸前高田市教委、救援委員会事務局、全美会員館3館・3名により実施。11月15日、生出小学校にて燻蒸した絵画4点を東和町の施設へ移送。11月25日、三重県立美術館へ再移送。同館にて修復作業中。

6. 気仙沼市および南三陸町(宮城県)

会員館リアス・アーク美術館による独自の活動。同館と国立歴史民俗博物館、気仙沼市教委等の協力により実施。5月以降長期にわたり、気仙沼市および南三陸町の各地で被災文化財を収集・洗浄作業。



岩手県立美術館あーとキャラバン
「アートデオヤコ拡大版『ユメノマチ』ができるまで」
大船渡市立綾里小学校にて 写真提供: 岩手県立美術館



石巻被災作品の応急処置



チャリティ・オークション展示会場



陸前高田被災作品の応急処置

●その他の震災関連活動

1. 連絡本部の設置、情報収集・公開

3月11日、連絡本部を設置、東日本の会員館207館の被災状況に関する情報を収集。被害の概要を全美ホームページに掲載。

2. 会員館アンケートの実施

東北・北関東の会員館を対象にアンケートを実施。被災館の当面の要望と救援の必要性を調査。

3. 全国美術館会議ホームページへの情報掲載

3月中旬、大規模災害対応に関する資料をホームページに掲載。5月から東日本大震災特設サイトを開設。随時更新中。

4. 支援体制の整備

4月上旬、臨時理事会により(1)連絡網組織、(2)対策本部の設置、(3)支援活動委員会の設置、(4)「文化財レスキュー事業」への参加を決定。

5. 文化財レスキュー事業 派遣職員の募集・登録

4月19日から派遣職員の募集を開始。全国の会員館から100名以上が登録。

6. 会合

- (1)美術館運営制度研究会第14回会合(4月10日 兵庫県立美術館)
参加者22名(各研究会幹事、運営制度研究会会員、近畿ブロック本部館・副本部館、全美事務局)。被災状況に関する情報交換、救援・支援活動に関する協議。
- (2)総会特別セッション「東日本大震災と美術館」(5月26日 横手セントラルホテル)

参加者210名(総会出席者)。岩手、宮城、福島、茨城、栃木県の県立館学芸課長による各館及び県内の被災状況報告、今後の諸課題に関する討議。

(3)救援・支援セッション「復興支援に向けての今とこれから」(7月9日 宮城県美術館)
参加者30名(有志参加)。中・長期的支援策に関する意見交換。

(4)第1回 東日本大震災復興対策委員会(11月11日 国立西洋美術館)
参加者23名(委員会・対策本部委員ほか)。委員会組織の決定、活動報告、被災地美術館の現状と問題、今後の事業に関する協議。

(5)第2回 東日本大震災復興対策委員会(2012年2月8日 国立西洋美術館)
参加者21名(委員会・対策本部委員ほか)。支援事業案の検討・採択、会員館による3.11事業計画の協議。

7. 救援・支援活動募金

全美による文化財の救出・修復、および被災地美術館の復興支援のため、会員館を通じて「東日本大震災救援・支援活動募金」を実施中。

8. チャリティ・オークション

10月5日～9日、東京美術倶楽部にて「東日本大震災復興チャリティ・オークション 今日的美術展」(主催:全国美術館会議・全国美術商連合会・文化庁、後援:(社)日本美術家連盟・新聞放送各社、協賛:(株)東京美術倶楽部)を開催。

9. 復興支援事業の募集・実施

全国美術館会議ホームページにて、被災地の美術館・博物館の活動を支援する事業案を募集中。採択された事業は、救援・支援活動募金およびチャリティ・オークション売上金により、2012年3月から随時実施。

全国美術館会議事務局

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館内
TEL: 03-3828-0290 FAX: 03-3828-0295